

日々の田高（『国際都市・新大久保を深掘り！』多文化共生の街づくりを感じよう）

8月25日（月）の午前中、『国際都市・新大久保を深掘り！』多文化共生の街づくりを感じよう フィールドワークを行いました。参加者は、1年生3名・2年生5名と教員4名の合わせて12名です。講師・ナビゲーターは、ライターの室橋裕和さんです。

今回のフィールドワークは、大きく三本の柱、①新宿区立大久保図書館訪問、②カイ日本語スクールにて、日本語を学ぶ留学生との交流、③多文化共生の街、新大久保・大久保の街歩きを行いました。

（１）新宿区立大久保図書館

人口の40%弱が外国人であり、様々な国の方が利用される公共図書館。現在は38か国語の書籍が約2900冊蔵書されているとのこと。利用される外国人は、母語の書籍が1冊でもあると、受け入れられていると感じ、安心されるそうです。図書館の奥のスペースでは、外国語の絵本の読み聞かせなど、多文化共生のイベントも開催されています。館長さんからの、熱い説明に生徒からの質問が出ます。例えば、「どのように、その国の書籍を選ぶのですか？」という質問には、館長さんから、「人口の分布などから、割合を計算して購入する書籍の言語を決めています。」と回答。

館長さんの、「お国はどこですか？」と聞かれたら、日本の地名や国名ではなく。「地球です」と応えるようにしているという言葉が印象的でした。



大久保図書館で説明を受けます。



図書館のイベントスペース

（２）カイ日本語スクール

日本語を学ぶ12名の留学生の皆様と交流させていただきました。今回は、インドネシア・台湾・アメリカ・スペイン・オーストラリア・インド・メキシコ・ロシアを母国とする方々で、日本での起業や就職、研究を進める等、チャレンジャーな皆さんです。初めに、各留学生が準備した自国の写真から、国の名前を当てるアイスブレイクから始まり、その後グループに分かれて、日本語で交流をしました。日本に来られた理由や日本の良さなどを伺い、自分たちが、気が付かない視点での指摘に、新たな気づきなどがありました。

特に、様々な国の方々が、一つの教室内で、日本語でコミュニケーションをしながらそれぞれの夢に向かって進んでいる、素敵な空間でした。



留学生の方々と交流します。



留学生の方々と交流します。



まとめの時間です。



全体での写真撮影です。

(3) 国際都市「新大久保・大久保」の街歩き

最後は、講師の室橋さんによる街歩きツアーです。新大久保駅から東側のコリアンタウンが形成された経緯や現状、新大久保駅の西側の様々な国の方々が入り乱れる多国籍の現状や経緯、日本で暮らすために必要なインフラとして支える金融機関、医療機関の紹介、従来から居住していた日本人の現在などなど、盛りだくさんです。一回の街歩きでは、語りつくせない、魅力あふれる新大久保・大久保地区です。

外国から来られた方々は店頭に立ち、地域に住む日本の方や他の国の方に日本語でやりとる奥深さを見たり、イスラム教徒のモスクのあるビルを見て、すぐ近くのパキスタン食材店に立ち寄り、奥深さを感じ、今回の街歩きは終了となりました。

母国を離れ、日本で暮らす方々の一端を見て、人間としてどのように共生していくのか、どうつながっていくのか、日本の公共施設である図書館の取り組み・留学生との交流・街で店舗に関わる人、様々な視点から感じ考えることができた、濃い時間でした。多くの調整をして講座を進めてくださった、室橋様ありがとうございました。



街を巡り、そこで店舗を運営する方の思いなどを聞きます。



街歩き中のひとコマ（水道工事の看板）なんと、日本語がありません。



パキスタンの食材店にてあま〜いスイーツを選んでいきます。



最後に講師・ナビゲーターの室橋さんと

○新宿区立大久保図書館

[多文化共生を目指す図書館](#)（東京都つながり創生財団のページに飛びます。）

○カイ日本語スクール

1987年2月に設立された日本語学校です。

「[KAIの学生と日本語で交流しよう](#)」というプログラムを実施しています。

○室橋裕和さん

[月刊「散歩の達人」](#)に、「[トーキョーアジアめし](#)」の連載をされたり、令和7年2月に放送されたNHK 100カメ“世界タウン”新大久保 日本で暮らす外国人たちの素顔にて、新大久保に暮らす方を紹介したり、ドラマ東京サラダボールにおいても協力するなど、多文化の街をフィールドワークしながら掘り下げている、魅力的な方です。

今回の街歩きに内容に興味があった方には、「[ルポ新大久保 移民最前線都市を歩く](#)（角川文庫）文庫 - 2024/1/23」がおすすめです。